

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02049

研究課題名(和文)「大谷探検隊将来ウイグル語仏教写本目録」にむけたデータベースの構築

研究課題名(英文) Development of the Database for Catalogue of Old Uighur Manuscripts brought back by the Otani Expeditions

研究代表者

橘堂 晃一 (KITSUDO, KOICHI)

龍谷大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：00598295

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀初頭、大谷探検隊が新疆省ウイグル自治区より将来したウイグル語写本は、約3000件を数える。そのうちの90%を占めるのが仏教関連のものである。羽田明・山田信夫(編)「大谷探検隊将来ウイグル字資料目録」(『西域文化研究』四、1961年)はその基礎的な目録であるが、研究の進展にともない改訂が求められていた。申請者は、ドイツやロシアの関連機関に所蔵されるウイグル語仏典と大谷探検隊資料を比較し、新たに約60件の断片の内容を特定することができた。その成果の一部は、個別の論文として発表している。この度の成果は、より精密な目録を作成するための土台となるものである。今後、さらなる比較研究が求められる。

研究成果の概要(英文)：The fragments of old Uighur manuscripts brought back by the Otani expeditions amount about 3,000 items. 90% of them are Buddhist texts. The Catalogue of the manuscripts written in Old Uighur script brought back by the Otani expeditions was published by Haneda Akira and Yamada Nobuo in 1961. This is fundamental catalogue to study these fragments. However, along with the development of linguistic study of Old Uighur language and Buddhist study, the catalogue is to be correct today. In this project, I, the applicant, visited several institutes in German and Russia where have the collection of Old Uighur from Turfan region. Comparing them with the fragments of the Otani expeditions, I could identify the content of about sixty fragments. I published a part of the fruits in the journals. This project can provide fundamental data for the cataloguing work.

研究分野：仏教史

キーワード：大谷探検隊 ウイグル語 写本 仏教

1. 研究開始当初の背景

10～14世紀に属する古ウイグル語(古代トルコ語)写本は、日本のみならず、ドイツ、ロシア、イギリス、中国に所蔵されるており、多機関に同種の資料が分割される状況となっている。そのような状況において研究上最も求められるのが目録である。ところが古ウイグル語写本の目録化は、ドイツで体系的に出版されている以外は、なお暫定的なものしか提示されていない。大谷探検隊資料に関して言えば、羽田明・山田信夫(編)「大谷探検隊将来ウイグル字資料目録」(『西域文化研究第四 中央アジア古代語文献』法蔵館、1961年所収)がある(以下「ウイグル字資料目録」と称す)。内容を特定できる分量をもつ資料から優先的に研究され、これ以後、総合的な研究は等閑に付されてきた経緯がある。一方、ドイツのベルリン=ブランデンブルグ科学アカデミー・トルファン研究所は、東洋文献目録化の一環として古ウイグル語文献の内容ごとに分類した目録を現在までに16冊刊行しており、古ウイグル語の研究に多大な貢献している。

2. 研究の目的

20世紀初頭、大谷探検隊がトルファン(中国新疆省ウイグル自治区)および周辺地域より将来した写本資料(約1万点)は、当該地域の仏教史、社会史を解明する上で第一級の資料価値をもつ。このうち古ウイグル語写本断片(2758点)は、その内容から仏教、マニ教、ネストリウス派キリスト教、世俗文書などに分類される。ウイグル語写本全体の約90%を占めるのは、仏教関連の写本である。本研究課題では、写本ごとの研究史とその後の新知見を反映させたウイグル語写本の総合目録を出版するためのデータベースの構築を目的とする。

3. 研究の方法

龍谷大学所蔵大谷探検隊将来資料の実見調査を基本活動に据えて、データベースの構築を行い、各写本に対する先行研究文献の収集も行った。

また、より精度の高いデータベース作成を目指す。そのために大谷探検隊将来の原文書を実見調査を行った。

大谷探検隊将来資料との比較を行うべく、ベルリン=ブランデンブルグ科学アカデミー・トルファン研究所とロシア科学アカデミー-東方文献研究所を訪問し、トルファン出土古ウイグル語文献の原文書調査を通じて、さらなる大谷探検隊将来資料の特定につとめた。

4. 研究成果

まず基礎的な法量などの写本データについては、すでに「ウイグル字資料目録」にあるとはいえ、なお未計測の写本も残されており、これらから優先的にデータを採取した。

併せてテキスト入力を行った。

大谷探検隊将来ウイグル語仏典を扱った研究書と論文を収集し、データベース化を行った。

以上の作業により目録化の基礎データを作成した。

作業と同時並行的、継続的に行ったのが、本課題の最重要課題となる仏典の内容比定である。ただし、大谷探検隊収集資料はそのほとんどが零細な写本断片であり、個々の資料そのものから内容を特定することは不可能に近い。そこで主としてドイツ、ロシアに収蔵される古ウイグル語仏典資料との比較が求められる。そこで2015年度にはサンクトペテルブルク・東洋写本研究所、2017年度にはベルリン=ブランデンブルグ科学アカデミー・トルファン研究所ならびにサンクトペテルブルク・東洋写本研究所を訪問し、古ウイグル語写本資料を閲覧し、大谷探検隊将来資料と関連する写本を見出し、内容を特定することが可能となった。これまでにウイグル語訳『金光明最勝王經』(Uig. Altun Yaruk Sudur)をはじめとする約60件の新たに内容を特定しえた断片があるが、ここでは既に論文として出版された例をいくつか紹介しておくことにする。論文番号は以下に挙げる「5. 主な発表論文等」の番号に準ずる。

論文(2)、(8)・第三次大谷探検隊隊員・吉川小一郎氏が撮影した古ウイグル語仏典写本の写真は、すでに故百濟康義氏・小田壽典氏によって實叉難陀訳『大方廣佛華嚴經』(八十巻本)であることが明らかにされている。報告者は、これと同写本に属する断片28点をサンクトペテルブルグ東方写本研究所所蔵資料中から見出し、テキスト化を行ったものである。これにより写真資料からだけでは分かりえなかった写本の法量や体裁がはっきりになっただけでなく、ウイグル語訳華嚴經が八十巻本と般若訳の四十巻本の合本であることが明らかとなった。

論文(7) 龍谷大学所蔵資料No.1098と1350は接続して貝葉一葉を形成する。その書体と言語特徴から判断して、10世紀～11世紀初頭に属する古ウイグル語文献の中でも古層に属する写本である。この写本が法相宗の第三祖・智周が著した『大乘入道次第』であることを明らかにした。敦煌写本には曇曠が『大乘入道次第』を注釈した『大乘入道次第開決』が残っている。この写本一葉は、10世紀～11世紀のトルファンと敦煌の仏教交流を示す貴重な資料である。

以上の論文(7)と論文(8)は、報告者が編集した図書(1)に収められている。他の内容を特定しえた断片については、今後個別に論文として発表していく予定である。

なお図書(1)には、研究協力者であるペーター・ツィーメ氏によるManichaean Turkic Texts in the Otani Collections of the Library of Ryukoku Universityも収録している。これは大谷探検隊将来の古ウイグル語

のマニ教写本断片の総合目録となっている。全部で 43 点が比定される。これはマニ教のみを扱うものではあるが、マニ教写本と仏教写本との区別化を明らかにする上で、本研究課題にとっても重要であり、来るべきウイグル語写本総合目録にとっても大きな指標となる。ここに特記しておく次第である。

以上により当初の目標である「大谷探検隊将来ウイグル語仏典目録」化のための基礎的作業は完了することができた。しかし今なお内容を特定できていない断片が相当数残されており、個々の断片に対する研究を今後も継続する必要がある。最終的な目録はそれを俟って作成することになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

(1)橘堂晃一「ウイグル文慈恩宗唯識文献「大唐三蔵行跡譜」について」、『敦煌写本研究年報』10号, 2016年3月, 371-381頁。(査読あり)

(2)橘堂晃一「ウイグル文華嚴經研究の新展開 奥書と訳出の背景を中心に」、『東洋史苑』86・87合併号, 2016年3月, 1-26頁。(査読なし)

(3)松井太、白玉冬、橘堂晃一「10～14世紀東方ユーラシアにおける古代ウイグル族のネットワークの解明」、『公益財団 JFE21 世紀財団 2015 年度大学研究助成 アジア歴史研究報告書』2016年3月, 219-234頁。(査読なし)

(4)Koichi Kitsudo, A Chan School Text in Old Uyghur: Mainz 340. In: 『西域 中亞語文学研究: 2012 年中央民族大学主辨西域 中亞語文学国際学術検討会文集』上海古籍出版, 2016年9月, pp. 264-282。(査読なし)

(5)Koichi Kitsudo, Sirkip: A Memory of the Buddhism behind the Toponym, In: 『龍谷大学仏教文化研究所年報』40号, 2016年11月, pp. 28-25。(査読なし)

(6)橘堂晃一「ベゼクリク供養僧図再考 敦煌莫高窟銘文を手がかりとして」宮治昭(編)『アジア仏教美術論集・第3巻: 中央アジア ガンダーラ～東西トルキスタン』, 2017年2月, 523-550頁。(査読あり)

(7)橘堂晃一「大谷探検隊将来ウイグル文『大乘入道次第』殘葉」『大谷探検隊将来西域胡語文献論叢: 仏教, マニ教, 景教』龍谷大学西域研究叢書6, 龍谷大学仏教文化研究所, 2017年3月, 87-103頁。(査読なし)

(8)Koichi Kitsudo, New Light on the Huayan jing in Old Uighur from the Krotkov Collection and Yoshikawa Photographs. In: 『大谷探検隊将来西域胡語文献論叢: 仏教, マニ教, 景教』龍谷大学西域研究叢書6, 龍谷大学仏教文化研究所, 2017年3月, 105-153

頁。(査読なし)

(9)橘堂晃一「敦煌石窟ブルーミー文字題記銘文集」『敦煌石窟多言語資料集成』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2017年7月, 164-198頁。(査読あり)

(10)Koichi Kitsudo and Peter Zieme, The Jin'gangjing zuan 金剛經纂 in Old Uighur with Parallels in Tangut and Chinese, In: Written Monuments of the Orient 2017(2), 2017, pp.43-87。(査読あり)

(11)橘堂晃一「新発見のウイグル文『仏説善悪因果経』」『内陸アジア言語の研究』32号, 2017年10月, 33-48頁。(査読あり)

〔学会発表〕(計 8 件)

(1)橘堂晃一「ベゼクリク石窟供養比丘図再考」中央アジア美術研究会, 於: 龍谷大学, 2015年6月13日。

(2)橘堂晃一「敦煌諸石窟婆羅迷文字銘文調査簡報」, 敦煌研究院学術講座, 於: 敦煌研究院, 2015年12月3日。

(3)橘堂晃一「古代ウイグル語「華嚴經」研究の新展開 奥書と訳出の背景を中心に」第55回中央ユーラシア学フォーラム, 於: 大阪大学, 2015年12月12日。

(4)橘堂晃一「2015年度敦煌地域ブルーミー文字銘文調査報告」, AA 研共同利用・共同研究課題「新出多言語資料からみた敦煌の社会」2016年度第一回研究会, 於: 東京外国語大学, 2016年6月5日。

(5)橘堂晃一, ペーター・ツィーメ, 「ウイグル文「金剛經纂」の研究」, 中国中世写本研究 2016 夏季研究大会, 於: 京都大学, 2016年8月6日。

(6)橘堂晃一, 荒川慎太郎, 「観心十法界図の研究 西夏とウイグルの事例を中心として」, 仏教文化研究所研究談話会, 於: 龍谷大学, 2017年7月23日。

(7)Koichi Kitsudo, New Interpretation of the Hell Scenes from Bezeklik Cave 18 according to the Tangut Material, Collegium Turfanicum, at Berlin Burandenburg Akademie der Wissenschaften Turfanforschung, 17 Nov. 2018.

(8)橘堂晃一「敦煌莫高窟前庭仏塔の弥勒菩薩像について」中央アジア美術研究会, 於: 龍谷大学, 2018年2月23日。

〔図書〕(計 1 件)

(1)入澤崇, 橘堂晃一(編)『龍谷大学西域文化研究叢書 6 大谷探検隊収集西域胡語文献論叢 仏教・マニ教・キリスト教』龍谷大学仏教文化研究所・龍谷大学世界仏教文化研究センター, 2017年, 214頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

龍谷大学仏教文化研究所客員研究員
橘堂晃一（KITSUDO Koichi）

研究者番号：00598295

(2) 研究分担者

（ ）

研究者番号：

(3) 連携研究者

（ ）

研究者番号：

(4) 研究協力者

1. ペーター・ツィーメ（Peter Zieme）
2. ジモーネ=クリスチアネ・ラシュマン
（Simone= Christiane Raschmann）
3. 松井太（MATSUI Dai）